800～2000mg/日，維持量 600～1800mg/日とした．症状の急変を防ぐため多くの症例で，これまでの向精神薬を減量して併用したので，初めから炭酸リチウム単独療法を行なつた症例は僅少である．

結果は，慢性躁病23例中21例に効果を認め，躁病では8例中6例に効果を認めた．躁うつ病では，躁状態35例中27例に，うつ状態6例中2例に効果を認め，躁状態の予防を目的とした2例にも予防効果を認めた．うつ病は不安焦躁の強い1例であつたが著効を奏した．躁病に対する効果は，症状全般を鎮めたが，多弁，多動，運動不安，意想奔逸，易怒，お節介，周囲との摩擦，緊張，不満，反抗など運動推進準備性の亢進や自制減弱症状を早く抑え，上機嫌な気分はおそくまで残る傾向が見られ，不眠，日内変動もあまり改善されなかつた．

慢性の経過の躁病や躁うつ病では，急性増悪期の襲来を防ぐか或は軽く経過させることが出来るようで，これまで何度もみられた衝動的自傷行為や激しい性的脱線，幻覚妄想の再燃強化などがなくなつた．幻覚妄想型躁病では新鮮な症状にはよく効く傾向がみられたが，経過の長いものでは幻覚は消えても妄想は抑えられた型で固定して残つている例が多かつた．

副作用は一過性のものが多いが，52例に認め，うち6例は治療を中止した．

更に脳波，心電図，血清電解質，肝機能，血液像，尿所見，尿中 Na, K の排泄日リズムに及ぼす影響を検討中である．

4．心内膜心筋生検に関する基礎的研究．組織計測法による肥大心筋の診断について

（心研・内科）

○広江　道昭・関口　守衛・白　　秀郷
（第1病理）今井　三喜
（法医）平瀬　文子

5．汎発性腹膜炎に対する超音波発生装置を併用した腹腔洗浄効果についての実験的有効性ついて

（外科）

○平林　　武・織畑　秀夫・太田八重子
倉光　秀麿・鈴木　　忠・岡崎　武臣

汎発性腹膜炎に対する腹腔洗浄療法に関しては多くの報告がなされてきたし，また，われわれ外科医が手術時—特に腹腔内—の汚染に際し日常好んで用いる方法でもある．そこで，この洗浄療法の目的である汚染物質の除去効果をなお一層高めるための手段として，超音波を利用した手術用手洗装置にヒントを得て，小型化した超音波発生装置を試作した．

実験には雑種成犬を用い，腹膜炎はそれぞれの実験犬自身の糞を注入することにより人為的に作成した．コントロール群では，1時間後に開腹し，温めた生理食塩液500ccずつで洗浄をくり返し，それぞれの洗浄液の単位容積当りの細菌数を培養にて算出した．超音波発生装置使用群では，上記方法に加えてそれぞれの洗浄ごとに超音波洗浄を併用し，同様の算出をした．各回毎の菌数が初回の何%に減少したかを両群について比較し，超音波発生装置を併用した洗浄方法が有意であるとの結果を得た．

6．IIc と誤認した胃体大弯側潰瘍の1例

（第2病院外科）

○山崎　靖夫・松村　功人・松本　邦夫
川田　裕一・阿部　泰恒・梶原　哲郎
坪井　重雄
（同内科）本多　祥之

大弯側潰瘍は，比較的まれなものであり，病変部を胃体大弯側と限局するならば，潰瘍の頻度は，さらに少なくなると言われている．現在までに，大弯側潰瘍については，かなり多くの報告があるが，胃体大弯側に限つての報告は少ない．いずれも胃全体の大弯側潰瘍であり，胃角部や幽門部のものも含んだ潰瘍の報告が多いのである．われわれは，臨床的にX線所見上IIc と考えられる症例を経験し，外科的に処置を行い，術後の検査で UI-IIの良性の単発性潰瘍に遭遇した．

よつて，この大弯側潰瘍の1例を中心にして，胃体大弯側潰瘍について文献的考察を行い，検討を加えて報告した．

7．小腸平滑筋肉腫の1例

（第2病院外科）

○成味　　純・服部　俊弘・高　　興弼
蒲谷　　堯・梶原　哲郎・坪井　重雄

小腸平滑筋肉腫は比較的希な疾患であり，下血や貧血管を主訴としたり，あるいは腹膜炎や腸重積症をきたす一方で偶然発見されることもあり，本症に特有な症状のないことからその術前診断は困難な場合が多い．

最近われわれは，急性虫垂炎との術前診断にて緊急手術を行なつた空腸の平滑筋肉腫を経験したので報告する．

症例は32歳男子で，心窩部痛よりはじまり，しだいに右下腹部に限局する腹痛と悪心・嘔吐を主訴として来院した．右下腹部の著明な圧痛，Blumberg 徴候をみとめ